



# むぎの郷 通信

“麦の郷とは”住民のニーズから  
生み出され、住民の手によって育てられる

October 2020

ソーシャル ファーム ピネル/くろしお作業所/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 ラ・テール/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター つれもて/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の川生活支援センター/ハートフルハウス 創/むぎピース/サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/ソーシャルファームもぎたて/Po-zkk/六星舎/叶夢向/創cafe/事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637 〒640-8301 和歌山市岩橋643 <http://www.muginosato.jp>



創カフェのある粉河駅前の古民家「山崎邸」が7月に国登録有形文化財に登録されました!



久しぶりのチンドン公演!  
一灯舎にて大盛況! 9.20(日)



こじか園 運動会 10.11(日)



## 私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々とつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



### 安心が保てる社会を！

新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し9ヶ月が過ぎました。日本でも感染拡大の波は第1波、第2波と人口の集中する都市部に拡がり、目に見えない敵は私たちに恐怖、不安、ストレスを与えています。こんなコロナ禍において、私たち麦の郷を含めた全国の多くの福祉事業所は感染予防対策を最大限図りながら事業を止めることなく日々の実践に取り組んでいます。

麦の郷の各事業所も加盟するきょうざれんでは、全国の加盟会員へのコロナ禍での影響調査を重ねながら国(厚生労働省)に対し3月に第1次から7月に第6次と6回の実態に即した要望活動を続けてきています。『心をひらく』『みんなの命を守る』『のろーガンを掲げ、対人支援を主とする福祉事業所が障害のある方ももちろん、その家族、支援する職員が安心して暮らせるための行政施策の要望や独自の取り組みをしています。独自の取り組みとしては企業や協力団体の支援により全国の会員事業所へマスクなどの衛生用品の物資提供や生産活動で売上減に苦しむ作業所応援プロジェクトの実施、夏祭りの中止や外出自粛で戸惑う仲間たちを励ます「なかまくん音頭」や「なかまの手洗い」の動画作成と配信、コロナ禍での職員が学び合える研修動画作成やオンライン研修などみんなが少しでも元気になれるように取り組んでいます。(詳しくはきょうざれんホームページに)

### 新型コロナウイルス感染対策研修会

麦の郷安全対策委員会

さて、コロナ禍で国民が不安を抱える中、前首相が体調を理由に突然辞任し新政権が発足しました。新首相のめざす理念は「自助・共助・公助、そして絆」です。自助・共助・公助は政府が社会保障や社会福祉のあり方の説明で近年よく用いられています。耳ざわりよくみんまで支え合いましょうと聞こえますが、背景では自己責任や社会保障の後退が伴い、貧困格差がより一層拡大するのではないかと懸念します。来年度は障害福祉に関する報酬改正がされる予定ですが、月額単価で成果・競争主義の報酬ではなく、ある一定の月額単価でどのような非常事態でも障害福祉の安心が保てる抜本的な改正を求めます。きょうざれんの活動とともに私たちの現場の声を国へ届けていきたいと思っています。

(きょうざれん理事 鈴木 栄作)

9月7日(月) 13時から14時30分まで麦の郷本部において新型コロナウイルス対策の研修会を開催しました。参加者は各部部长、また感染者がでた場合に高リスクが予測される事業所としてグループホーム、相談支援事業所のスタッフ、また防災に特化した麦の郷安全対策委員に集まってもらいました。こうして参加者を限定し密集を避け26名での開催としました。講師は愛徳医療福祉センターの永井尚子医師

にきてもらうことができました。永井氏は和歌山市保健所長を長らく務められていたことから感染症などにも精通し、障害者施設のことにも詳しいため、麦の郷スタッフにとっては願ってもない講師を迎えることができました。講演内容は、コロナウイルス感染症の発生状況、コロナとはどんな病気か、感染対策の基本、施設の感染対策、PCR検査体制について、感染者が発生した場合などについてです。コロナウイルスについてはニュースや新聞、ネットなどで多くのことは知っているつもりでしたが、感染経路、感染方法を詳しく聞くことができ、施設においての対策などは改めて知ったこともあり危機感を強く感じました。正直9月7日時点において、和歌山県内でのコロナウイルス感染発生状況は比較的穏やかであり、危機感是非常に薄れていました。しかし講演から、まだ有効なワクチンもないこと、誰も予想できない第3波の襲来など、まったく脅威は去つた訳でなく、コロナウイルスに対して正しい知識を持ち、正しく恐れることが必要であること、そして感染者がでても差別しない地域づくりが求められることを感じ



ました。そしてこの研修で何よりうれしかったことは、

麦の郷において本当に久しく実施できなかった「研修会」という名のもとに、「集団」で「学ぶこと」ができたことです。ウィズコロナの状況下において3月以降、集まって学ぶ機会が大きく制限されてきました。この間、イベントや研修会がごとく中止や延期に追い込まれました。でもようやく半年が経過し20名規模になります。研修会を開催しました。これが一歩となり、オンラインを含め様々な企画が進んでいけば、少しずつですが以前の生活に戻っていける確信を持つことができたことは本当に大きいことだと思えます。

(麦の郷安全対策委員 武田 賢一)

### 在職者交流会での取り組み

障害者就業・生活支援センターつれもて

障害者就業・生活支援センターつれもてでは定期的に一般企業で就労されている登録者を対象にした交流会を行っています。

新型コロナウイルスの影響でなかなか交流会を開催することができなかったのですが感染予防対策を徹底し、9月24日ふれ愛センターで今年度初となる交流会を開催することができました。

今回は和歌山市の出前講座を活用させていただき、ストレスと上手に付き合ったための対処法やコロナ対策としての新しい生活様式について

講師の方に講義していただきました。

講義では自分自身のストレスをよく知り、自分の専門家」となり対処法を見つけること・発想の転換の工夫をすることが大切だと学びました。また感染症対策の話では「3密」などという最近よく耳にする、新しい生活様式」について再確認する機会となりました。

講義の後に参加



者に感想を聞いたところ「限られた時間の中でも濃い内容の話が聞けた」「ストレスは人によって対応が違うので自分なりの対処法を見つけた」と思った。自分の専門家という言葉が心に響いた。「非常にわかりやすく勉強になった」「職場でもストレスの勉強をしているが、改めて話を聞いていい経験になった」という感想が寄せられ、有意義な時間を過ごすことができましたと感じました。

コロナ終息が見えず大変な時期ではありませんが、登録者がストレスや不安とうまく付き合いつながりながら職場で活躍していけるように、今後も様々な取り組みを考えていきたいと思っています。

(障害者就業・生活支援センターつれもて 上田 登茂子)

### \*むぎ・わくわくレポート13\*

#### 職場訪問から学んだこと

あるメンバーの職場を訪問した時、上司の方から「1人暮らしだけど生活はいけているのかな?」と具体的に心配なエピソードを教えてくださいました。が正直ピンときませんでした。その話を受けて初めて自宅訪問すると家の中は物で溢れていました。訪問系のサービスが1つずつ増え関係機関と連携していくとご本人の状況をより知ることができました。私もゴミ出し支援で訪問を繰り返すと、関係機関の話がよりわかるようになり今は職場の上司の方の話を聞いてもイメージしやすくなったと思います。

ご本人の話を聞くなかでよく「大丈夫」と言われますが、この「大丈夫」という言葉だけを受け取るのではなく、その背景にどんな事があるかをイメージし状況を確認する事が大切だと思います。支援はたくさん方法がありますが、今回のべったりだけでなく、時にはついたり引いたりしながらの見守り支援も続けていく必要があると感じました。

(障害者就業・生活支援センターつれもて 中里 悦子)

5年 令和3年(2021年) 年賀状印刷 12/15 受付中 ご注意はFAXでもOK! 年賀状印刷 承ります 麦の郷印刷 TEL.073-464-3707 FAX.073-464-3708



### コンタクトのお楽しみ会

麦の郷紀の川生活支援センター

当事業所の地域活動支援センターは、5月に緊急事態宣言が発令されてから約1ヶ月間休止となりました。6月以降は活動再開し、職員、利用者さん共に活動できる喜びを分かち合ってきたものの、



野外や料理等の集団レクリエーションの休止が続きました。「少しでもみんなで楽しみたい」という利用者さんたちの切なる願いを感じ、コロナ禍でもみんなで楽しめるアミューズメントはないか、私たち職員が出来ることがないかの思いから、8月12日(水)13日(木)14日(金)の3日間、手作りお楽しみ会を開きました。

利用者さんたちと2週間前からゲームを作り、できることを分担しながらみんなで力を合わせて準備をしました。当日はコロナ対策の為、人数制限になりましたが、魚つりやストラックアウト、勝ちぬきジャンケン、ジエンガ等、ゲーム方式で景品に市販のお菓子を添えて楽しみました。

ストラックアウトをした人たちは、最初は玉が入るか心配でおそるおそる投げていましたが、玉が入りだすと、夢中になって玉を投げ入れて、調子よくボンボンと高得点をたたきだしていました。魚釣りは、始めはS字を引っかけるだけでも苦戦気味。それが少したつと、コツをつかんでパンパンつりだした結果、大漁者続出になりました。

「コロナ禍で緊張感を強いられる中、今後も利用者さんみんながほっこりと安心できるような居場所を作っていけたらと思います。」  
(麦の郷紀の川生活支援センター 片木 美千代)

### ポズック夏祭り

P o i z z k k

「夏祭りがいなあー」  
メンバーのその一言でハッとしました。本来なら夏祭りがある時期をとくに過ぎていたのです。

コロナウィルスの影響で色々な事がストップしてしまい、普段していた遊びも習い事もお祭りも全部、無くなってしまうていました。中には「コロナって知ってる?」と聞いても「犬?」と答えるくらい理由もよくわからないままの人もいます。

3月くらいから徐々に出来なくなる事が増えていく中、お給料を稼ぐのも大事だけど、どうやってストレスを溜めないようにするかスタッフ

フで試行錯誤してました。人の少ない公園に行ったり散歩に行ったり...

それでもなかなか間に合わないような気がしていたので簡単な遊び道具を作る事にしました。

思えば知らないうちに春くらいから準備していたみたいです。

「やるなら出来るだけ本気っぽいのをやる」

作業スペースをガラッと変えて日常とは全く違う雰囲気！  
もちろんメンバーは目をキラキラさせて当日を迎えました。

一階は遊びスペース。玉入れやルーレットなどに音をつけて盛り上がる。二階は屋台スペース。これも本格的に！想像以上に楽しそうにしていたメンバーを見てホントにやって良かったです。

こんなテーマパーク運営を作業所の仕事にしても面白いのでは?なんて、次の展開も見えたりしてピンチをチャンスに変えられたとても意味のある1日になりました。

(ポズック 奥野 亮平)



### ゆったりカフェ『プチ』...

和歌山生活支援センター

麦の郷和歌山生活支援センターではコロナ以前、月2回・2時間の『ゆったりカフェ』を自由参加で行っていました。緊急事態宣言が出た4月・5月は中止し、解除後6月より月3回・1時間の申し込み制の『プチゆったりカフェ』を再開しました。

参加人数は、6人まで。申し込み多数の場合は、先着順ではなく、参加回数の少ない人から順に参加できるようにしています。参加者には、前日の16時以降電話で参加できることをお伝えしています。都合もあるでしょうが電話にお出にならない場合は、残念ですが、次の方に電話することもあります。コロナの感染者数が減らないことやこの暑さもあり、申し込みが少ない日もあります。少ないと寂しいので、そういう時には、参加できそうなかまに声掛けをすることもあります。

また、ゆったりカフェ当日に突然来所された方には、きちんと説明をした上でプチゆったりカフェが終わってから再来所していただくか、お帰りいただいています。

以前は、テーブルごとにお菓子を置いていましたが、今は、紙で折った箱に数種類のお菓子を入れ、一人ひとりのお席の前に置いてあります。席も以前の半分に減らし間隔を空けています。飲み物は、コーヒー・紅茶・お茶などを各自で

入れます。

なかまのみなが話をする中で話題に出てくるひとつに和歌山市駅の商業施設「キーノ」があります。既に行った人、まだの人。興味はあるけれど、一人で行くのは... という方もおられるのでは? 『プチゆったりカフェ』をきっかけに、久しぶりのレク再開を身近なところで行うかなと、「キーノ」に出かけることを思案中なのです。

(和歌山生活支援センター 濱田 麻里)



### 鰻パワートン張ンニ...

叶夢向

暑い夏を乗り越えるには鰻と言いますが、叶夢向でも暑さが増すにつれて鰻の話がちらほらと出てくるようになり、鰻売り出しのチラシを持ってきたり、お弁当に鰻の蒲焼を持ってきたりする仲間もいました。

そんな中で今年の食事会の話が出てきました。夏には毎年食事会を企画していて、去年はミニ懐石、その前はBBQと慰労を兼ねて食事会を

催してきましたが、8月に入り再びコロナウィルスの感染が騒がれるようになり、今年はないとした方がいいのではという意見も出始めました。  
しかし春から楽しみにしていた企画が全部中止の中で、食事会も中止と言つのはどうだろう、どこかに食べに行くのではなく事業所でテイクアウトメニューを食べるのだったらということになり、その候補として鰻があげられました。  
ただ鰻は意外と好き嫌いの分かれるもの、食べられない人もいるのではと、緊急鰻アンケートを実施して張り出したところ、なんと全員食べられる(むしろ大好き)との結果が、いえ約一名「俺は分厚いビーフステーキしか受け付けない身体なんや!」と言う施設長がいましたが、誰も相手にせず無事にみんなで鰻を食べることにになりました。

そして8月11日、老舗東鳥春で注文した鰻重を前にみんなの目は爛々と輝いていました。みんなが英気を養い残暑を乗り切っていこうと確認して、鰻重を口に頬張りました。

美味しい鰻重を見事に全員で完食し、元気がいっぱい残暑に臨む叶夢向のみなでした。



(叶夢向 藤本 数馬)



### みんなの表現作品が 海南駅構内で展示されました

◎9月1日～15日  
◎海南市物産観光センター内ギャラリー

アートサポートセンターRAKU

みその商店街の「アートサポートセンターRAKU」で日常的に表現活動に参加されている方々の作品展を、今年も開催しました。むぎピース（週1回）和歌山生活支援センター（月1回）あすなる（月1回）アートたいむ（月1回）等、活動参加の皆さん27名36作品（絵画・版画・おり染・短歌・俳句・造形）が展示され、会場は多彩な魅力にあふれていました。

会場が駅構内ということもあり、福祉関係者だけでなく一般や行政の方も含めて50名あまりの方々に鑑賞していただくことができました。中には、障害のある人たちの表現に初めて出会う方たちもおられ「ユニークな型がほほえましかった」「色彩がとても素敵」「細部まで根気のいる作業を成し遂げる力に感動した」「楽しんで制作しているのが伝わる」「心がホッとできる」など、これまで最高数の感想コメントがノートに書かれていました。

作品を展示した皆さんも、事業所のおでかけや個人で会場を訪れました。自分の作品展示を見てそれぞれに感じるものがある様子でした。「いろんな人たちに見てもらえるのは元氣になれる」「自分が創ったものが、こんな風に展示

### 「コロナ禍の中にも、 笑顔いっぱい運動会」

こじか園

10月11日（日）、今年も、新型コロナウイルス感染症予防対策を考えたうえで、運動会を行いました。台風の影響がなければ10日（土）にする予定でした。こじか園の運動会は、園庭（外）で行うことにごこだわっているため、子どもたちの為にグラウンドの状態の良いコンディションでやりたいと考え、11日（日）に開始時間を1時間遅らせ行いました。

運動会は、感染予防のため、来賓はお断りし、保護者も子ども1人に対して2人までとしました。観覧席は例年より広げて空間をとり、パイプイスを使い、密を避けるようにし、プログラムも、例



年は1部、2部で2部は保護者競技や家族競技など行っていました。今年も、時間短縮のため1部の子どもたちだけの競技にしました。

当日は、保護者に見てもらっていることを喜び、張り切っている姿や、逆に、いつもと違う雰囲気になってしまったり、次第に気持ちを立てなおす子どももいました。お母さんを求めて

されて嬉しい」等の感想が聞かれました。表現活動は、自身の心、見てくれる人の心を楽しくゆたかにしてくれます。

最後に、皆さんに伝えたい一般の方からの感想コメントをご紹介します。

「コロナ災厄の中、心が少しだけ楽になりました。楽しい作品が好きです」

（麦の郷訪問看護ステーション 島 久美子）

### きらびり星空のロマンを描いて

池宮さんグッズデザインカレンダーに

### 採用！

「むぎピース

このたび、第13回きょうざれんグッズデザインコンクールにて入賞していた池宮弘登さんの作品『星と月の夜』が、来年のはたらくなかまのつた壁掛けカレンダー11月の紙面に採用されました。池宮さんは、絵を描いたり、掃除をしたりといった活動をしています。また作業所に来る以外にも、ギャラリーの展示に参加したり、公募に応募したりと精力的にアート活動をされ



ています。そんな池宮さんに作品やアート活動についてお話を聞きました。

今回採用になった『星と月の夜』は、自由なペンの軌跡と青や赤のカラーインクのにじみ表現を駆使して、夜空の街並みを描いた作品です。この作品を手掛けた当時、池宮さんは星がきらきらしているイメージや、宇宙の世界といったものにロマンを感じ、そのようなテーマの作品を多く描いていました。その中で「シンプルに夜空の絵を描きたい」と思い生まれたのが今回の作品です。見どころやメッセージについて聞いてみると「自分がこの作品を見て癒しになるので、こころおだやかにしてくれればうれしい」「夜空の表現に対して興味をもってほしい」と語ってくれました。

作業所やギャラリー、SNSも用いて活動の場を広げてきた池宮さんですが、



「自分の絵にかかわらず、みんなもつとギャラリーに足を運んでほしい」とメッセージをいただきました。コロナ流行の折ですが、みなさんもこの秋、アートに触れる機会を持つてみては？

（むぎピース 玉置 利紗）

保護者席に行こうとする子どももいました。その子の子、それぞれの運動会。できたできなかったではなく、これまで取り組んできたこと、友だちと取り組んできたことという過程が大切とこじか園では考えています。

年長5歳児は、オープニングをしたり、3、4歳児よりも多くの出番を作り、5歳児としてのプライドを高く保つよう考えています。少し難しいことも、何度も友だちと一緒に取り組んでいくことで、運動会当日は自信をもった姿を見てもうえました。そんな5歳児さんに、4歳児の子どもたちは憧れて、運動会が終わってから、5歳児さんがしていた踊りで遊んでいると、一緒に踊りたいと踊りに入ってくる子どもたちがたくさんいました。

自分の子どもだけでなく、こじか子33人の姿を保護者は、温かく見守ってくれていました。

（こじか園 浦上 武史）

### スマホで楽しく写真撮影の講座

ゆめ・やりたいこと実現センター

ゆめ・やりたいこと実現センターでは、ひとりの「こんなことしたい」という願いからスタートし、みんなで取り組む「やりたいこと講座」を毎月数回ずつ開催しています。

先日の『やりたいこと講座』では、『夕刻のたまり場』利用者の三木将矢さんからの「スマホでよく写真を撮ってるけど、もっときれいに



「したい！」と希望された三木さんはじめ参加者にとっても、講師をしてくれた宮坂さんにとっても、やりたいことや願いが実現した意義ある講座になりました。

今年度はコロナ禍により大変な状況が続いています。人数制限や体温測定、手洗い消毒などおこないながら、「できない」はなく「できること」を探して、みんなで楽しんで活動しています。「やらされる」のではなく「自分で選ぶ」ことを大切にしながら...

（ゆめ・やりたいこと実現センター

藤本 綾子）

## 新型コロナウイルス感染症 緊急包括支援交付金

この交付金は感染拡大防止対策のために物品を購入した際の資金の助成や、環境整備への助成です。現在、管理者会議は感染防止のため中止になっており、細かな情報交換ができていない状況が続いています。この助成金で会議をリモートで行うためのタブレットの購入が決定され準備を進めています。また各事業所がオゾン空調機等も検討しています。幸い一麦会では現時点において感染者はなく、各事業所が行っている感染予防の取り組みに、この交付金を有意に活用し、さらに強化できたらと考えます。

## 緊急車両を準備

発熱等があり、新型コロナウイルスが疑われる仲間を病院まで送迎するため、運転席と後部座席に防護シートを設置した緊急車両を準備しました。今までは個人の車両等を使っており、担当の職員が防護服もない状態で支援していました。万一感染が疑われるときは防護服、手袋等も麦の芽ホームの宿直室に準備しています。

(麦の郷事務所 坂口 幸代)



## 助成ありがとうございました

このたび、赤い羽根共同事業より遊具倉庫の購入に助成金をいただきました。保育者からは、広くて使いやすい。子どもと一緒に楽しく片付けられると好評です。保護者からも、募金が身近に感じられるとの声がありました。現在、遊具倉庫の愛称を園児・保護者から募集しています。愛称を付けて長く、大切にに使わせていただきます。今後とも、障害のある子どもたちの豊かな発達を支えるために精進して参ります。本当にありがとうございました。

(第二こじか園 山口 薫)



## 保護司会様より 手づくりマスクをいただきました

9月4日、保護司会東支部マスクの会様より、なかまに男性用はカッコいいストライプ、女性用は花柄やハートのかわいいマスクをいただきました。マスクと共に『コロナに負けるな』というメッセージもついていました。保護司会様には人権フェスタで毎年パンを購入していただいています。次々とイベントが中止になり、自粛生活の毎日の中、マスクを着けるのが楽しくなったなかまもいます。ありがとうございました。

(はぐるま共同作業所 市川 みき)



## むきのひと



ハートフルハウス 創  
石橋(伊良部) 由季子

私は入職して4年になります。私と麦の郷の出会いは今から15年程前、「学校に行きたくても行けない」思いを抱えていた中学生の頃、当時無認可で不登校支援をしていた「ハートフルハウス」がはじまりでした。その後の多様な人との関わりや経験から「人の中で傷ついた者は人の中で癒される」「人は集団の中で育つ」ことを学びました。そして、「社会で生きづらさを感じる人たちと関わりたい」、「人に寄り添いながら共に歩んでいきたい」、「社会が抱える問題に働きかけていきたい」という思いを抱くようになりました。それらが繋がる場で働くことができたなら再び麦の郷と出会いました。創では個性豊かなメンバーとの取り組みや対話を通して、日々たくさんの気づきや考えさせられることがあります。みんなそれぞれに社会での生きづらさを抱えながらも「自分らしい生き方」を懸命に模索しています。そんなメンバーたちと一緒に昨年10周年を祝う文化祭を創りあげられたことは私の大きな感動でした。今の私ができることは、私が周りの人たちにしてもらったように寄り添い、思いをじっくり聴き、一緒に考え、自分の居場所や自分自身を発見していくためのほんの小さな支えになることかなと思っています。私自身も「人が育つ場で自分も育ち続けたい」という願いを大切にしていきたいです。最後に、4月に入籍し、ごりごりウチナンチュ(沖縄の人)姓「伊良部(いらぶ)」になりました。仕事上は「石橋」のままでもらいます。今後ともよろしくお願ひします。